

平成23年度 佐賀県立致遠館中学校 学校評価計画

1 学校教育目標
未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、豊かな人間性と進取の気性に富む若人を育てる。

2 学校経営ビジョン
(1) 中高一貫教育校として、6年間を見通した効果的な学習指導・進路指導・生活指導の組織的な方策を確立し、6年間のゆとりという利点を生かし、生徒一人ひとりの個性と能力を育てる学校づくりを進める。 (2) 6年間の指導計画の中で、経験や体験を大切に教育活動を重視し、自ら考え、調べ、発表するなどの能力を育て、専門的に学んでいくための高い能力を備えた人材を育てる。 (3) 生徒が高い意識を持って将来の夢・目標をしっかりと定め、それを達成すべく手厚い指導をしていくことで進路実現を図る教育を進める。特に、中高の接続をスムーズなものにし、生徒自身の内発的動機に基づく進路選択を図る。 (4) 保護者や地域との連携を図りながら、開かれた学校づくりを進める。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1) 生徒一人一人の特性に応じて、高校での学習に必要な基礎的学力及び応用力を養成します。 (2) これまでの8年間の進路指導及び学習指導を検証・改善し、中高一貫教育の充実に努めます。 (3) 日常的な生徒の生活を把握し、問題行動の防止に努めます。 (4) 教育相談の取組を充実させ、生徒の悩み等に対応します。 (5) 生徒の自主的活動を支援し、発展させます。	各項目とも一定の成果を出すことができた。特に、学校経営目標、学力向上、生徒会活動、研修、図書、教育相談で高い評価が出た。さらに、中高一貫の特色を生かした目標の設定が求められる。また、各具体的方策が学校運営の改善にさらに効果的につながるように、全職員の共通理解と共通行動を徹底する。

5 総括表
(1) 生徒一人一人の特性に応じて、高校での学習に必要な基礎的学力及び応用力を養成します。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	学力向上	基礎的学力の定着の徹底 応用力の養成	・高校での学習に必要な基礎的学力及び応用力を養成する。 ・自発的学習習慣の定着と家庭学習の充実に推進する。	・少人数授業やTTを実施し、個に応じた指導を進める。 ・ICT活用による学習指導方法を研究する。 ・特色あるカリキュラムの検討を行う。 ・補充学習や発展的学習を積極的に取り入れる。
(2) この8年間の進路指導及び学習指導を検証・改善し、中高一貫教育の充実に努めます。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	教職員の資質向上	教科指導法研究と指導力の向上 各種職員研修を通じた生徒対応力の向上	・授業研究会を各教科1名以上は実施する。 ・定期的な教科部会を充実させる。また、中高合同の教科部会を通して、中高一貫教育における教科指導力を向上させる。 ・教育相談や人権・同和教育の職員研修を通して、総合的な生徒対応力を向上させる。	・「学び合い、分り合える授業を目指して」をテーマに授業研究会を計画的に実施し、相互の指導力向上を図る。 ・新教育課程に応じて年間計画を作成し、各教科で授業研究会(中高合同部会を含む)を実施する。 ・課題プリント、定期考査等について教科部会を行う。 ・各種研修会に積極的に参加し、その成果の検証を行う。
教育活動	進路指導	中高一貫教育における進路指導の研究	・高校との接続を考えた、中学校での体系的な進路指導を研究する。 ・高校で必要な学力を伸ばすための学習指導法を研究する。	・進路教材を効果的に活用する。 ・一人ひとりの適性をとらえ、6カ年を見ずえた進路指導を心がける。 ・中3から高1への接続期の学習指導を充実させる。 ・高校進学後の問題点を明らかにし、学習指導法を検証する。
特定課題	中高一貫	中高一貫教育の成果の伸張と課題の克服	・有意義な6年間となるように進路指導の充実に努める。 ・中高一貫教育研究委員会を定期的に開催し、改善に繋げる。	・これまでの8年間の中高一貫教育を検証し、その成果と課題を整理し、中学校の教育活動の改善に取り組む。 ・中高の接続及び文理選択をスムーズに行える綿密な進路指導を研究し、改善に繋げる。
	SSH研究	中高一貫の特性を生かした教材開発と生徒の自然科学への興味関心の喚起	・「分析する」をキーワードとした教材開発を充実させる。 ・キュリオシティセミナーをはじめとする、興味関心を高める事業を充実させる。 ・高校のSSHに接続する中学校の選択授業や「 <u> </u> 」課題研究を充実させる。	・学校設定科目「探究」の教材開発を充実させ、他の教科にも「分析する」教材開発を浸透させる。 ・キュリオシティセミナーを通じて、自然科学への興味を喚起する。 ・高校のSSHに接続する選択教科などの内容を新課程に応じて改善する。 ・適切な情報提供と活動支援を行う
	体験活動	エリア・スタディ(総合的な学習の時間)の充実	・エリア・スタディを通じて、生徒の課題設定・課題解決能力、コミュニケーション能力、社会形成力を育成する。	・各学年のエリア・スタディのねらいに沿った活動を目指して改善する。 ・1年生の福祉体験学習、2年生の職場体験学習、3年生の卒業研究を充実したものとす。 ・総合的な学習の時間の成果発表会を実施する。

(3) 日常的な生徒の生活を把握し、問題行動の防止に努めます。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・睡眠・食事についての指導推進する。朝食喫食率を98%以上にする。 ・学業・部活動の両立の推進する。	・保健だより等で睡眠・食事についての指導を推進する。 ・各種講演会・講話等を通して、精神衛生の向上に努める。 ・部活動の充実・推進を図り、基礎体力の向上を図る。
	生徒指導	中高一貫教育の特性を生かした「心」を育てる生徒指導の確立	・生徒の規範意識を向上させる。 ・思いやりの心を育てる。 ・特に、あいさつ励行 時間厳守 掃除にきちんと取り組む、という指導を推進する。	・月別生活目標を設定し、その月々の重点指導項目を掲げる。 ・校内生徒指導連絡協議会(年6回)、生徒指導連絡会(毎週水曜日)等により全職員で情報を共有し、学年や学級の集団作りに積極的に活用する。 ・佐賀市の生徒指導連絡協議会や合同補導に積極的に参加し、地域や関係機関との連携強化を図る。 ・毎日の登校指導、自転車通学の安全指導、昼休みの教室巡視、中学校集会時の服装検査の定例化などにより、事件・事故、問題行動等を未然に防ぐ。

(4) 教育相談の取組を充実させ、生徒の悩み等に対応します。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	教育相談	学校不適応生徒への組織的な支援 発達障害への理解と適切な対応	・専門機関や他の職員との連携を図り、組織的に支援する。 ・発達障害等について理解を深め、早期の発見と対応を図る。	・学校不適応の生徒については、教育相談部が主導となり、組織的に支援できるように手配する。 ・別室登校の生徒の学習状況を把握し、支援する。 ・研修会や連絡会を通して、職員の共通理解と対応能力の向上を図り、問題の早期発見、早期対応を行う。

(5) 生徒の自主的活動を支援し、発展させます。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	部活動	部活動による学校の活性化	・部活動加入を推奨する。 ・あいさつの励行やマナーアップを図る。 ・部室の整理整頓や環境美化を徹底させる。	・中高の部活の接続を強化する。 ・勉学との両立を図るための指導を工夫する。 ・部活動顧問と担任・保護者との連携を緊密にする。
	生徒会活動	生徒の自主的活動の重視	・生徒による企画、運営に取り組み、生徒の自発的活動を発展させる。	・意見箱を設置し、生徒からの意見を活動に反映させる。 ・学級討議活動を充実させ、委員会活動の活性化を図る。 ・係活動を充実させ、生徒の自主性を育む。

本年度の重点項目に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	学校経営方針	本年度の重点目標の周知 保護者、地域との連携	・保護者の90%以上が本年度の重点目標を知っている。 ・後援会総会、学年保護者会及び学校評議員会を活性化させる。	・学校HP、学校新聞、学年便り、後援会総会、三者面談等を通して周知を図る。 ・後援会総会や学年保護者会等の学校行事を保護者に周知し、保護者の参加を積極的に促す。
	開かれた学校づくり	公開授業の推進及び情報発信	・各学期1回以上の授業公開・授業参観等を実施する。 ・毎月のホームページの更新、EDQスクールニュースの毎週更新を実施する。	・授業参観日の実施、講演会、エリアスタディ発表会、SSH発表会等への参加を呼びかける。 ・毎月のHP更新、EDQスクールニュースを充実させる。
教育活動	心の教育	豊かで思いやりのある心の育成	・教職員の共通理解のもと、道徳の授業等で心の教育を計画的に実践する。また、機会をとらえて実践する。	・道徳の授業研究や公開授業を推進し、指導力の向上を図る。 ・学級通信等を通して具体的な事例の中での訴えかけを行う。 ・人権・同和教育と連携し、仲間づくりから思いやりのある心を育てる。
	保健厚生	心身の健康増進と環境美化	・治療勧告生徒の受診率を45%以上とする。 ・全員掃除、ゴミの分別・減量化を徹底する。	・家庭との連携により、早期治療の勧告と徹底を図る。 ・15分間の全員掃除を徹底し、ゴミの分別や減量について、学校全体で取り組む。
	研修	校内外研修の充実	・研修の円滑な運営と検証をする。	・各学年の1日研修を研修部で総括し、課題を把握し改善する。 ・アンケート結果等に基づく改善点の検討をする。 ・校内外の研修会へ全職員に参加を促す。特に、人権・同和教育関係の研修会には1人1回は参加するよう取り組む。
	図書	読書による豊かな心の育成	・朝読書を充実させる。 ・本の貸出冊数を増やすと共に図書館利用を促進する。 ・学年や教科との連携を図る。	・生徒が自発的に朝読書を取り組むように指導する。 ・読書ノートの活用などを通して、読書生活の態度を育てる。 ・生徒が親しみやすく、利用しやすい図書環境づくりを心がける。